

知らない間の出来事

あゆみの回想

(九月一日)

いよいよ、新しい学校での生活が始まった。父の転勤てんきんとはいえ転校は不安だったが、自己紹介じこしょうかいの後、みんなから拍手はくしゅをもらい、これから楽しくやっていけそうな気がした。

ちようど、校門から道路に出ようとするとき、同じクラスのみかさんに声をかけられた。

「ねえ、あゆみさん。わたしたちなんだか仲良しになれそうな気がするの。そのわけはあとでゆっくり話すね。で、早速さつそくだけど、これから一緒に遊いっしょばない。時間と場所はあとでメールするから、携帯けいたい電話のメールアドレス教えて。」

「こちらこそ、よろしく。でも、ごめんね。わたし、携帯電話……、持っていないの。そのかわりうちの家の電話番号、教えるから。」

と、言って、メモ用紙に家の電話番号を書いてわたした。

みかさんは、メモ用紙を受け取ると、がっかりしたようすで、

「えっ、携帯持ってないの。ううん、じゃあ、またね。」
と、言っつて、帰つてしまった。

わたしが前にいた学校では、携帯電話は本当に必要なかつたし、親からもまだ早いだらうと言われ
ていたので、持っていなかつたのだ。

(九月二日)

新しい学校での二日目^{ふつかめ}。教室に入ると、みんなの視線^{しせん}がなんだか自分に向けられていることに気付
いた。思い切つてとなりの席の男子に聞いてみた。

「ねえ、なんでみんなわたしのほうを見ているんだろう。」

「それはね、たぶん、あゆみさんのことが書かれたメールのことだと思つうよ。」

「えっ。何て書いてあつたの。」

「今度転校してきたあゆみさんは、前の学校で仲間はずれになつていたので、この学校に転校してき
たんだった。ねえ、それ本当なの。」

わたしの心は、おどろきでいっぱいになつた。

(どうしてわたしがそうなってしまったの。このままだと本当に仲間はずれになってしまう。)

わたしは、どきどきする胸むねの鼓動こどうを聞きながら、帰りの会で発言した。

「わたしは、前の学校で仲間はずれにされたりしていません。みんなと仲良しでした。根も葉もないことをメールで勝手に流されたりして、とてもかなしいです。みんながメールのことを本気にしてしまうといやなので、勇気を出して言いました。」

帰りのあいさつのあと、先生が声をかけてくれたが、わき目もふらず家に帰った。

「あゆみに電話よ。」という母の声が聞こえてきたのは夕方四時ごろだった。



みかの回想

(九月一日)

二学期が始まった日、転入生をむかえた。転入したあゆみさんは自己紹介でこんなことを言っていた。「わたしは、漫画まんがが好きで、読むのもかくのも両方好きです。特に、最近は漫画をかくことに夢中むちゆうです。はやくみんなと友達ともだちになりたいです。よろしくお願いします。」

わたしはびっくりした。それはわたしの趣味しゅみとまったく同じだったからだ。わたしも漫画が大好きで、最近さいきんは、かくほうに夢中むちゆうだった。

(よし、あゆみさんと友達ともだちになって、漫画をかいて遊あそぼう。)
まずは、メールアドレスを聞いて、それから遊あそぶ時間と場所を決めようと思い、あゆみさんに声をかけた。

わたしは、ふたたびびっくりした。あゆみさんは、携帯電話を持っていなかった。せっかく、漫画の話はなしができると思ったのに……。家の電話番号が書かれたメモ用紙は、小さく丸めて、ポケットにつっこんだ。

もしかして、あゆみさんが携帯電話を持っていないということは、友達ともだちと連絡れんらくできないということ。

ということとは、友達があまりいない子だったのではないか、などと思い、
《今度の転校生、携帯持ってないんだって。友達あまりいないみたい、これは推測すいそくだけど。》
と、メールに書いてクラスの友達に送った。

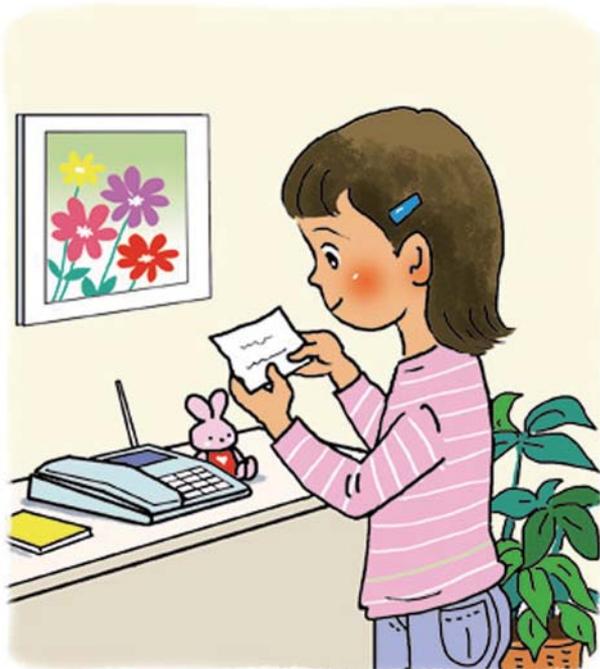
(九月二日)

朝、教室に入るとクラスのみんながあゆみさんのことをうわさしている声が耳に入った。

授業も終わり、帰りの会で、いきなりあゆみさんが手をあげて言い出した。それは、前の学校の根も葉もないことをメールで流されたということだった。なんで、そんなことがメールで流れたのだろうか。

放課後、クラスの友達に聞いてみた。

「さっきのあゆみさんの話だけど、どんなことが書いてあったの。」



「わたしのメールには、《今度の転校生は、携帯を持ってないから、仲間はずれにされて、この学校に入ってきたらしい。》と、書いてあったよ。」

わたしは、それを聞いて、はっとした。まちがいない。それは、わたしが書いたメールがいつの間にかこんなことになっていたのだ。わたしの思いこみがこんなことになってしまうとは……。

頭の中は、あゆみさんのことであっぴいになった。

わたしが、電話番号の書いてあった紙をきれいにもどし、あゆみさんの家に電話をしたのは夕方のことだった。